


彼岸花（PS2版）

【ひがなばな】

ジャンル	サウンドノベル	
対応機種	プレイステーション2	
発売元	サミー	
発売日	2002年12月26日	
定価	6800円	
分類	クソゲー判定	
ポイント	エンディング水増し 気色の悪い顔グラフィック 史上最低の主人公	

概要

有名サウンドノベル『[弟切草](#)』『[街](#)』と同じ、長坂秀佳が製作総指揮を執った作品。

PS版弟切草（[弟切草 蘇生編](#)）の発売に合わせて小説版が書かれたが、この小説版には「彼岸花」「寄生木」という続編が存在し、3部作となっていた。

その「彼岸花」は、ゲームボーイアドバンスとPS2でそれぞれゲーム化されている（内容はそれぞれ違う）が、本項はその後者の方。

問題点

- ▶ プレイ開始から最初のエンディングまで、読み終わるのに2時間以上はかかる。
 - ▶ 一応既読文章の高速スキップと、ムービースキップは可能。
- ▶ 『弟切草 蘇生編』同様、「どんでん返しシステム」が使われている。これは1度見たエンディングにもう1度辿り着くと、その続きである新たなエンディングが出現するというもの。
 - ▶ エンディングは合計187種類（+隠しが4種類）存在する。
 - ▶ 長坂は「この数はギネスもの」「どのエンディングも会心の作」と攻略本で豪語しているが、実際は露骨な数合わせのものばかり。
 - ▶ 「旅館の女将に電話を貸して下さいと頼んだら、突然女将が鬼に変身しました」という意味不明なエンディングが5種類もあったり、長坂の過去作に因んだ内輪ネタな結末があったり...
 - ▶ それとは別にバッドエンドも存在する。選択肢の3番を選ぶと、高確率でバッドエンドになる。しかも突然鬼の生首が降ってきて爆発するなど、意味不明なものばかり。
 - ▶ エンディングの水増しぶりと酷さに限って言えば、かの『[四八（仮）](#)』をも上回る。
- ▶ 更に攻略の難易度を高めているのが、「見えない選択肢」というシステム。いわゆるランダム分岐であり、攻略本でも「[ランダム分岐のため展開が混沌](#)」と記述されているほど。

史上最低の主人公

メイン主人公であるお嬢様の性格が異常なまでに悪い。

- ▶ 「幽霊なんて非科学的だからこの世にはいない」と公言しているが、その理由は実は自分が怖がりだから。しかし、幽霊の存在を信じる他人の意見を徹底的に叩き潰し、無言の圧力までかけて黙らせないと気が済まない。果ては「ここで目を反らせたら負けだ」と、意味も無く勝敗に拘る。
 - ▶ 二言目には「私これでも居合をやるのよ」を連発する。

怪談を語るタクシー屋を「コワガラセハラメントのクソ運転手め」と罵倒する。

- ▶ 自分の知識をひけらかし、周りが感心したり自分の意見を引っ込めたりすると機嫌良く飲み物を奢り始める。
- ▶ 強引な推理を進めて仲間内の雰囲気悪化させておきながら「ああ、私達の信頼が壊れていく。皆気が立っているのだ」と人事の様に嘆く。
- ▶ 普段から身勝手な言動で周囲を振り回しておきながら、他の2人が勝手な行動を取るとガキ大将呼ばわりしたり、「人の意見も聞いたら？身勝手は良くないわ」と説教を垂れたりする。

かの**ミストさん**とでも張り合えそうなくらい主人公としては酷いキャラであり、明らかに「イヤなヤツ」なのだが、なぜかサブ主人公の2人は「彼女はいつも正しい」と服従する。

反発するシーンも一応あるのだが、なぜか「逆らう他の2人の方が悪い」かのような描かれ方をされる。

攻略本のキャラ紹介にも「**人当たりが良く正義感が強い**」と書かれており、一応その言動を作中でも批判されているミストよりもある意味タチが悪い。

- ▶ おまけにサブ主人公の1人で一番思いやりがある善人は、ボク女で口調がイタイというザマ。
 - ▶ もう1人は空気。

後に長坂は、著書『長坂秀佳術』にて、**彼岸花は大失敗だった**と語っている。